

「市民」

1回目の今回は

小さなことが大事

寺沢隆政（日吉町二丁目・49歳）

わたしは、日常「ゴミ出しをした」ことがありません。生「ゴミ」は分かりますが、「プラスチック」「ゴミ」となると、生「ゴミ」ではないというぐらいの識別レベルです。そんなわたしが、先日、子どもが通う城東小PTAの主催する、移動環境学専攻・エコムーブ号がやって来る」に参加しました。参加者は予想のとおり、児



ています。しかし各自の意識のレベルには違いがあります。ま

ずは、各自の自覚からが基本だと、感じました。

子ども・緑・未来

柿本理香（南町一丁目・34歳）

前橋に住んで三年目。初めて訪れたときの小雨の敷島公園の印象が、今も忘れられません。以前住んでいた山形の小都市よりも、街並みに緑があふれているように感じられます。この豊かな緑を子どもたちにも伝え、守っていききたいと思うのです。

息子が生まれ、広報紙などで子育て情報を見てあちこちへ出掛けています。子育ては親だけの問題ではありません。子どもは地域に関わりながら育ち、子育てを通じて、親も成長していくものだと思います。子育てが終わった人、お年寄り、若者、みんなと交流し支え合っていかれたら。親も支援を受けて当たり前ではないけません。ニーズに合っていない支援もいけません。そんな視点で子育て支援について考えたいと思っています。



育の問題として、ゆとり教育や学生の理科系離れにどう行政が取り組んでいるのかなど、ほかにも関心を向けなければならぬ事柄はたくさんあります。大学での四年間を除き、ずっと前橋市に住んでいます。前橋市について知らない事柄がた

環境問題を発信

三輪 明（亀里町・36歳）

現在、大学院の自然科学研究科生物化学研究室に所属し、高崎市と太田市にある専門学校で特別講師もしています。また、薬剤師、公害防止管理者の資格も持っている。医療や環境問題に関心があります。特に、医療については、夜間の小児救急に対する取り組み、環境においては、ゴミ問題などに関心を持っています。また、教



くさんあります。現在は、情報化社会であり、行政においても情報公開は進んでいます。わたしは市民の立場として、行政とは違う視点から情報を収集し、発信できればと考えています。



熱心に話し合う編集会議

問い合わせは広報広聴課

890 6642へ。